

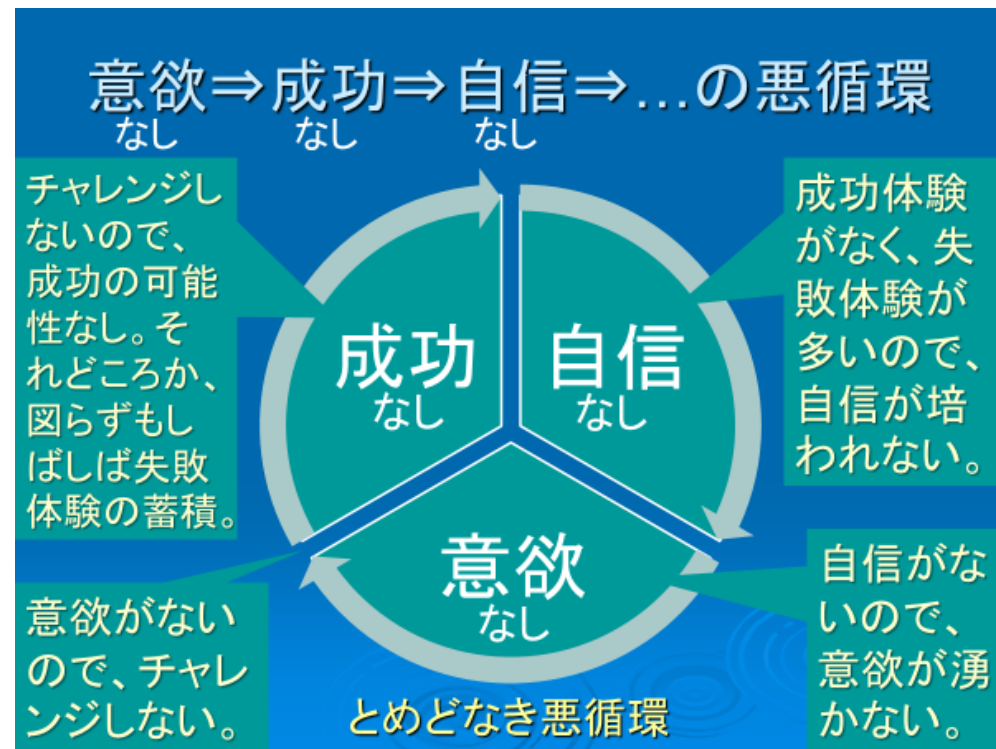
子ども(個人)を取り巻く環境《概念図》



- ところで、一般に、ストレスを解消するためには、「映画・ドラマ鑑賞や読書で泣いたり笑ったりする」、「趣味や創作・作業に没頭する」などが、有効とされています。このような、感動(わくわく)体験・没頭(夢中)体験には、どのような意義があるのでしょうか。
- それは、三つの教育の目的*のうち、3に相当すると考えられます。
 1. その社会に既にある技術(アート)を子どもに教え学びとらせること
 2. 子どもの中にある学習する力、協力する力創造する力、を育てること
 3. 子どもをして超越の世界に触れさせること(下線は筆者が追加)
- これらのうち、1と2の体験は、日常の学校(園)生活の中でも、しばしば得られますが、3の体験となると、学校(園)行事など、特別な機会でないとなかなか得られない実情があります。
- このように、超越の世界(生活環境を超えた非日常世界)に触れる体験が、なかなか得られない実情の子どもたちは、学校(園)生活の中で不応を起こすと、意欲を失ってしまいがちです。それを取り戻すためには、上のイラストで描いたように、時には超越の世界(イラストでは『超越の海』と表現)に触れる体験が必要で、「よた話・あす話」は、そのきっかけとなる話題とすることができます。

* 蜂屋慶(編):教育と超越, 玉川大学出版部, 1985.

7 好循環の原動力となる意欲の源 ~かかわりの中で癒され満たされる体験~



発達障害等に伴って、生きづらさを感じながら幼児期・学齢期を経過する子どもたちは、その間に、園や学校の集団生活の中で不応を起こしやすく、登園渋り・登校渋りを経て、不登園・不登校の状態になったり、更に、家からも出ない(出られない)ひきこもりの状態になったりする場合が、しばしばあるようです。

そういう状態になっているとき、本人の心的状況は、自信がなく意欲も湧いてこないという状況になり、上図のような、とめどなき悪循環に陥ってしまうこともあります。その原因には、我が国の学校(園)が抱える制度上・システム上の不備が、深くかかわっていると考えられますが、それは、一朝一夕にして変えることのできない問題なので、当事者にとっては、解決の糸口を見つけにくい状況と言えましょう。

長野圏域療育コーディネーター/言語聴覚士 安川 健治
〒380-0928 長野県長野市若里6-6-14 児童発達支援センター にじいろキッズらいふ
TEL 026-219-3781 業務携帯 080-8877-1709 E-mail k-yasukawa@nagano-shajikyoo.or.jp

意欲⇒成功⇒自信⇒...の好循環

チャレンジすれば、成功の可能性が出てくる。たとえ成功しなくとも、体験の蓄積となる。



成功体験や、チャレンジできた体験の蓄積は、自信を培う。

意欲があれば、チャレンジしたくなる。

意欲こそ好循環の原動力

自信があれば、意欲が湧いてくる。

- では、前頁のような悪循環から抜け出して、好循環のサイクルへと移行していくためには、どうしたらよいでしょうか。ここでは、子どもにとっての「環境*」を、どのように整えていけばよいかという視点から、考えていきたいと思います。
- 悪循環ではなく、好循環を目指すとする、それは、どのようなものなのか、想定してみると、上図のようになります。ここで、好循環のサイクルが回り始めるためには、子ども自身の意欲が必要で、意欲こそ好循環の原動力であると言えます。
- つまり、好循環の原動力である子どもの意欲とは、いったいどのようなものなのか、そして、それは、どのような体験によって培われるものなのかと、考えてみる必要がありそうです。
- 子どもを取り巻く生活環境には、様々な要素がありますが、その中でも、身近な人とのかかわり、特に、保護者や学校の先生など、日常生活の中にかかわる頻度の高い大人とのやり取りが重要です。

* ここでは、子どもを取り巻く、衣食住など生活の基礎（物的環境）、母語を土台とする言語・コミュニケーション（情報環境）、保護者の養育態度をはじめとする家族の状況（人的環境）が、貧困・野生児・虐待など、極端に劣悪でなく、通常的环境であることを前提とします。

生きづらさを和らげ生活や人生を豊かにする日常会話の在り方

～よた話・あす話の勧め～ 保養と充足という視点から

	よた話	あす話
保養 (癒される)	他所の 他人	ありがとう すまない
充足 (満たされる)	喜び 楽しみ	あす (未来)

疲労がたまったり、ストレスが募ったりすると、意欲が減退してしまう。そのようなとき、心が癒され満たされるような話題で会話をして、元気の回復を図る。

- 基本的に、疲労から回復し、ストレスを解消するためには、休息や栄養補給によって体調を整えながら、日光を浴びる、適度に身体を動かす、風呂に入るなどして、心も体もリラックスすることが有効であると言われています。
- その上で、更に、身近な大人との日常会話の中で、元気を回復していくためには、どのような話題について、やり取りするのが重要になります。それは、本人にとって、保養（癒される）と充足（満たされる）の効用が得られるものであると考えられます。
- 上の表は、発達支援リーフレット④「こだわりの向こうに未来を描く～意識の転換から個性の伸長を目指して～」の4ページで、「よた話・あす話」として取り上げている日常会話での話題について、「保養」と「充足」という視点から整理した表です。
- 一方、子どもにとって身近な大人が、楽しい日常会話を展開するために、控えるべき話題があります。「勉強」「宿題」「約束」、この三つは、日常会話で控えるべき「禁句」とも言える言葉です。なぜなら、これらの言葉は、「勉強しなさい!」、「宿題やったの?」、「約束だからね。」など、大人が子どもに強要する場面で使われることが多く、負の意味が付加されているからです。